

1. ご使用の前に

1. ご注意

こんな所に設置しないでください。

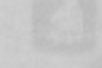


- ・直射日光の当たる場所、壁紙のそば、壁紙の隙間、床、壁紙の継ぎ目、壁紙の剥がれ、壁紙の破損、壁紙の欠け、壁紙のめくれ、壁紙の剥がれ、壁紙の破損、壁紙の欠け、壁紙のめくれ

こんな所では置かないでください。



- ・壁紙の隙間、壁紙の剥がれ、壁紙の破損、壁紙の欠け、壁紙のめくれ



- ・壁紙の隙間、壁紙の剥がれ、壁紙の破損、壁紙の欠け、壁紙のめくれ



PORTATONE PSR-37

ガイドブック
取扱説明書

YAMAHA

このたびは、
ヤマハ・ポータートーンPSR-37を
お買い求めいただきまして、
誠にありがとうございます。

この取扱説明書の見方

本書は、PSR-37の豊富な機能、操作方法を理解しやすいように、
少しずつステップを踏んで読んでいただけるような構成になってい
ます。従って、基本的には前の方から順にご覧ください。
また、次のような見方をされるのもアイデアです。

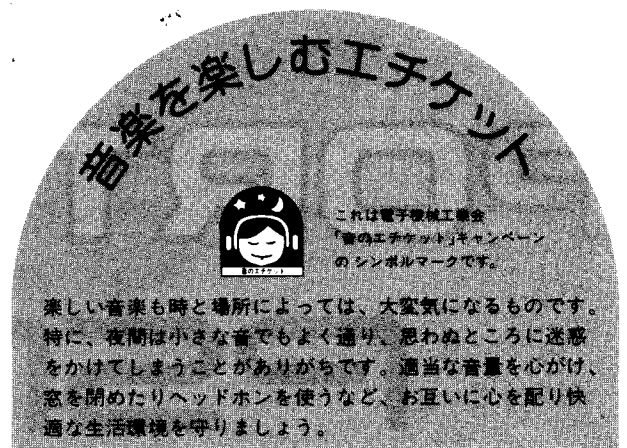
●全てをご理解いただいた後は……

“もくじ”のページを開き、目的に合った所をさがす。

●ボタン等のはたらきが分からなくなった時……

“各部の名称とはたらき”を開いて調べる。

さらに詳しく知りたい時は、そこに記載してある参照ページを
見る。



もくじ

1. ご使用前に ……………	ページ	4. ステップ2(活用編I) ……………	ページ
1. ご注意……………	2	1. フィンガードコードで演奏……………	15
2. 譜面立ての立て方……………	2	・練習曲(ラブ・ミー・テンダー)……………	16
3. 電源のしたく……………	2	・フィンガードコード一覧表……………	17
2. 各部の名称とはたらき ……………	3	2. ソロスタイルでパフォーマンス(ソロスタイルプレイ)……………	19
3. ステップ1(基本編) ……………		3. 打楽器を担当してしまおう(キーボードパーカッション)……………	19
1. デモンストレーション曲を聴いてみよう……………	6	5. ステップ3(活用編II) ……………	
2. 好きな音色で弾こう……………	7	1. コード進行を記憶させよう(コードシーケンサー)……………	20
3. 音に効果を!(サスティン、デュアルボイス)……………	7	・練習曲(とんぼ)……………	21
4. 他の楽器と音程を合わせるには?(ピッチ)……………	8	2. 他の機器と接続するには?……………	23
5. リズムに合わせて弾こう……………	9	3. MIDI機能でステップアップ……………	23
6. スプリット演奏をしよう……………	11	6. 資料 ……………	
・練習曲(青い影)……………	11	1. オプション(別売品)のご紹介……………	27
7. シングルフィンガーコードで楽々演奏……………	12	2. 仕様……………	27
・シングルフィンガーコード一覧表……………	13	3. おかしいな?と思ったら……………	28
		4. 発音数一覧表……………	29
		5. アフターサービスと保証……………	30

1. ご使用の前に

1. ご注意

こんな所には置かないでください。



- ・窓際などの直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所
- ・日中の車内
- ・温度の特に低い場所
- ・湿気やホコリの多い場所
- ・振動の多い場所

こんな所では使わないでください。



- ・ラジオやテレビのすぐ近くで使用されますと、ラジオやテレビ側で雑音が発生することがあります。十分に離してお使いください。

乱暴に扱わないでください。



- ・落としたり、物をぶつけたり、上に座ったりしないでください。傷がついたり、故障の原因となることがあります。

使わない時は…



- ・必ずパワースイッチを切ってください。
- ・電源アダプターを使用した場合は、家庭用コンセントから抜いてください。
- ・長い間使わない時は、乾電池を取り出してください。

美しく保つために…



- ・汚れは、柔らかい布でカラ拭きしてください。
- ・汚れがひどい時は、少し水で湿らせた布で拭いてください。
- ・アルコールやシンナー類は、絶対に使わないでください。
- ・ビニール製品を上には置かないでください。貼り付いてしまうことがあります。

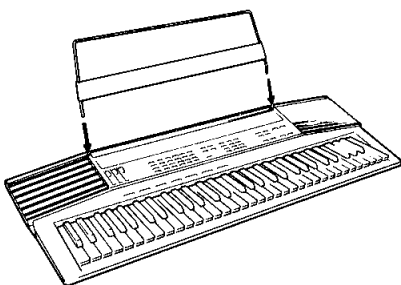
保管してください。



- ・このガイドブックをお読みになった後は、保証書と共に大切に保管してください。

2. 譜面立ての立て方

付属の譜面立ては、コントロールパネル面上方にある2つの穴に足を差し込んでお使いください。



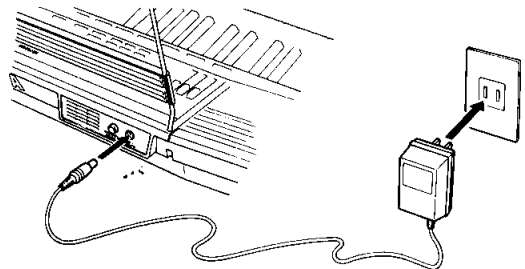
3. 電源のしたく

PSR-97は、家庭用コンセントでも乾電池でも使えます。お使いになる前に、どちらかを選んで準備してください。

家庭用コンセントから電源をとる場合

付属の電源アダプター・PA-1Bを使用します。図のように接続してください。

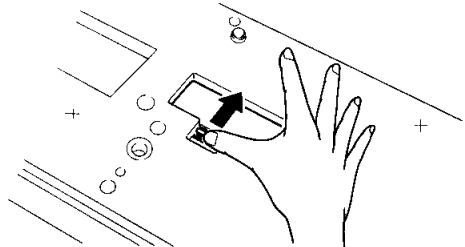
- ①リアパネルにある電源アダプター接続用端子(DC(9-12V)IN)へ差し込む。



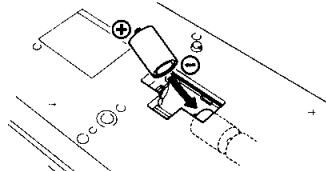
- ②家庭用(AC100V)コンセントに差し込む。
※他の電源アダプターは使わないでください。

乾電池を使う場合

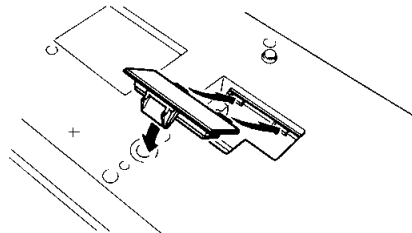
- ①PSR-97を裏返し、電池ブタを外します。



- ②市販の乾電池(単1乾電池)を6本入れます。向きを間違えないように入れてください。



- ③乾電池を入れたら電池ブタを閉めます。

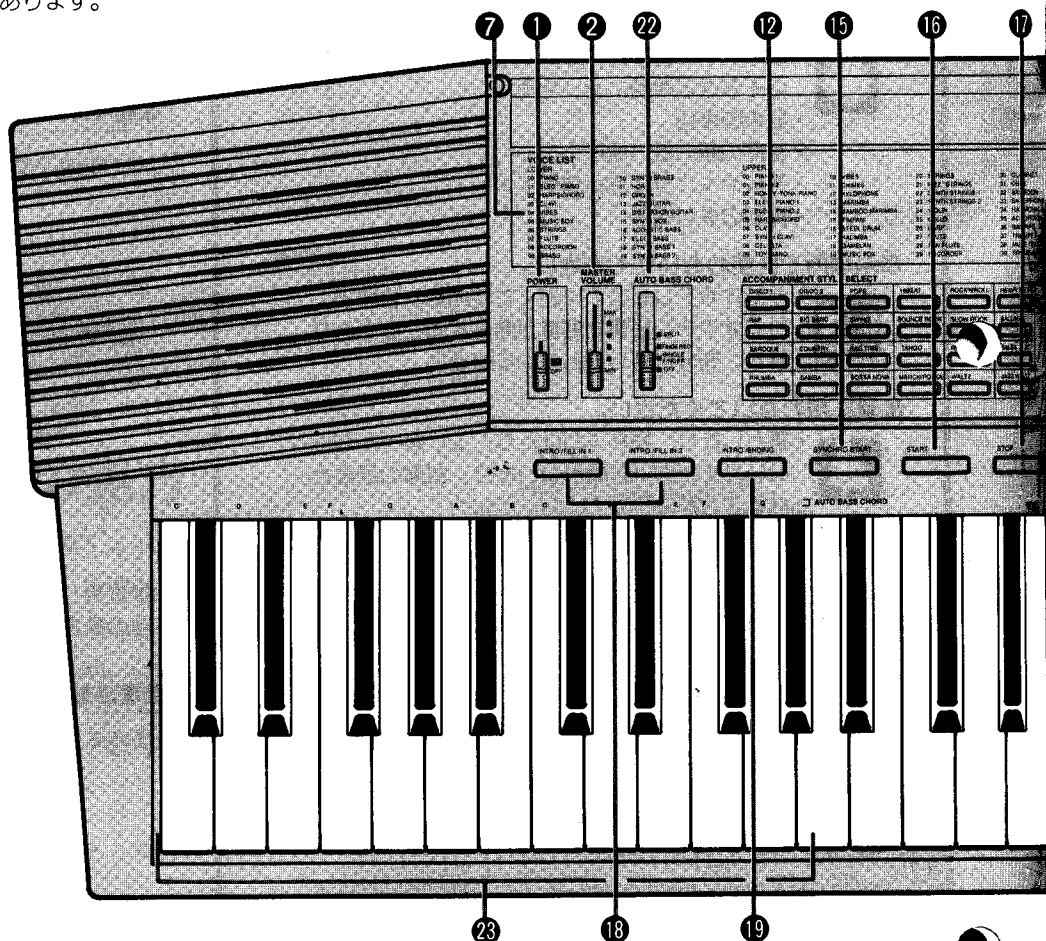


※電池が少なくなると、音が歪んだり、誤動作するようになります。このような時は、6本共新しいものと交換してください。

お買い求めの際、乾電池は単1乾電池6本とご指定ください。

2. 各部の名称とはたらき

⇒マークのところにくわしく説明してあります。



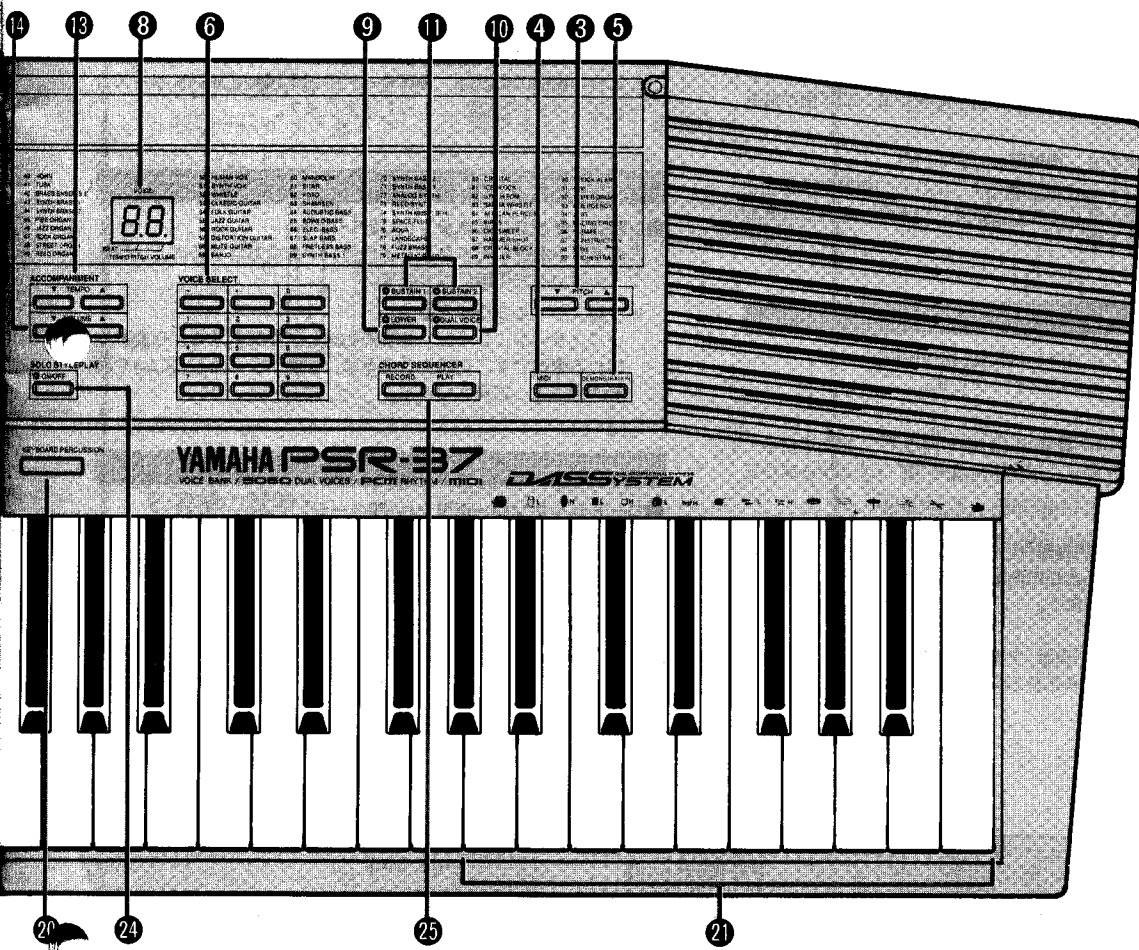
全体のコントロール

- ① **パワースイッチ** (⇒6ページ)
電源を入れたり、切ったりするスイッチです。電源を入れると、⑧の[LEDディスプレイ]に音色番号の00が表示されます。
- ② **マスターボリューム** (⇒6ページ)
全体の音量を調節するためのレバーで、上の方にすらすらほど音が大きくなります。
- ③ **ピッチコントロールボタン** (⇒8ページ)
発音のピッチ(音程)を微調整するためのボタンです。他の楽器や録音された音楽に音程を合わせることができます。
- ④ **MIDIボタン** (⇒23ページ)
MIDI(ミディ)に関する設定は、このボタンを押しながら行います。
- ⑤ **デモンストレーションボタン** (⇒6ページ)
デモンストレーション曲を聴きたい時は、このボタンを押すことによりスタートさせることができます。もう一度押すと止まります。

ボイス(音色)

- ⑥ **ボイスセレクトボタン** (⇒7ページ)
100種類の中から音色を選ぶためのボタンです。-(マイナス)ボタンは、現在の音色よりも1つ小さい番号の音色にするためのボタンで、+(プラス)ボタンは、現在の音色よりも1つ大きい番号の音色にするためのボタンです。0~9のボタンは、音色を番号で指定する時に使用します。
※これらのボタンは、スプリット演奏時には低音側の音色を指定するためのボタンとしても使用します。ただし、この場合は100音色でなく、低音側音色の20種類の中から選択します。
- ⑦ **ボイスリスト*1** (⇒27ページ)
高音側音色が100種類と低音側音色が20種類、「番号と名称」の対応で表記されています。
- ⑧ **LEDディスプレイ** (⇒7.8.9.10ページ)
音色の番号(00~99)が、ここに表示されます。テンポ(リズムの速さ)やピッチ(音程)、ボリューム(音量)の設定時は、それらの値が表示されます。
- ⑨ **ローボタン** (⇒11ページ)
スプリット演奏時に使用します。スプリット演奏時には、このボタンを押してボタン左上のランプを点灯させてください。低音側の音色を指定できる状態になります。操作後、約5秒経過すると高音側の音色を指定できる状態に戻ります。

- ・ACCOMPANIMENT (アカンパニメント) : 伴奏を意味します。
- ・SYNCHRO (シンクロ) : 同期を意味します。



※スプリット演奏とは?

⑦の[オートベースコードスイッチ]をスプリット (SPLIT) の位置にすることにより、スプリット演奏が可能になります。スプリット演奏は、オートベースコード用鍵盤を弾いた時と、それ以外 (高音側の鍵盤) を弾いた時の音色を異なったもののできる機能です。音色の組み合わせは、自分で自由に指定できます。

⑩デュアルボイスボタン(⇒7ページ)

このボタンを押してボタン左上のランプを点灯させると、デュアルボイス演奏が可能になります。さらに、この状態ではデュアルボイスの音色を順に指定することができます。また、もう一度このボタンを押してランプを消灯させると、デュアルボイスの状態が解除されます。

※デュアルボイス演奏とは?

デュアルボイス演奏は、演奏に対して2つの音色が同時に(重なって)鳴る機能です。音色の組み合わせは、自分で自由に指定できます。

⑪サスティン1/サスティン2ボタン(⇒7ページ)

このボタンを押してボタン左上のランプを点灯させると、演奏音に自然な余韻がつくようになります。なお、サスティン1よりもサスティン2の方が、余韻の長い効果が得られます。もう一度押してランプを消灯させると、効果が解除されて元の状態に戻ります。

アカンパニメント(伴奏)

②アカンパニメントスタイルセレクトボタン(⇒9ページ)

24種類の中から伴奏スタイル(リズムの種類)*2を選ぶためのボタンです。

④テンポボタン(⇒9ページ)

伴奏(リズム)のテンポ(速さ)を調節するためのボタンです。

⑤アカンパニメントボリュームボタン(⇒9ページ)

伴奏(リズム)の音量を調節するためのボタンです。

⑥シンクロスタートボタン(⇒9ページ)

オートベースコード用鍵盤を押すと同時に伴奏(リズム)をスタートさせる場合は、このボタンを押します。

⑧スタートボタン(⇒9ページ)

すぐにリズムをスタートさせる時に押します。

⑩ストップボタン(⇒10ページ)

伴奏(リズム)を停止させる時に押します。

⑫イントロ/フィルイン1,2ボタン(⇒10ページ)

イントロのパターンでリズムをスタートさせたり、フィルインのパターンを入れる時に押します。

⑬イントロ/エンディングボタン(⇒10ページ)

イントロのパターンでリズムをスタートさせたり、エンディングのパターンで伴奏(リズム)を停止させる時に押します。

※イントロのボタンは3つあります。ボタンによってパターンが異なります。

※フィルインのボタンは2つあります。ボタンによってパターンが異なります。

キーボードパーカッション

- **キーボードパーカッションボタン**(⇒19ページ)
ボタンを押すと、キーボードパーカッションの状態になります。そしてもう一度押すと、キーボードパーカッションの状態が解除されます。
- **キーボードパーカッション用鍵盤**(⇒19ページ)
キーボードパーカッションの状態では、これらの鍵盤を押すことにより打楽器音を鳴らすことができます。つまり、自分でリズムを奏することができます。

オートベースコード

- **オートベースコードスイッチ**(⇒11、12、15ページ)
演奏モードを指定するためのスイッチです。
シングルフィンガー
●の[オートベース用鍵盤]を指1本で押さえて、伴奏させることができます。伴奏は、ベース、コード、リズムから成り立ちます。
フィンガード
●の[オートベース用鍵盤]を普通のコードの押さえ方で押さえて、伴奏させることができます。伴奏は、ベース、コード、リズムから成り立ちます。
スプリット
●の[オートベース用鍵盤]を弾いた時に鳴る音と、それ以外の鍵盤を弾いた時に鳴る音の音色を異なったものにできます。

オフ

3種類のどの機能も使わない時は、この位置にします。

- **オートベースコード用鍵盤**(⇒11、12、15ページ)
これらの鍵盤の役割は、演奏モードの指定(●の[オートベースコードスイッチ]の位置)によって決まります。

ソロスタイルプレイ

- **ソロスタイルプレイボタン**(⇒19ページ)
このボタンを押してボタン左上のランプを点灯させると、ソロスタイルプレイが可能になります。
***ソロスタイルプレイとは?**
ソロスタイルプレイは、演奏音に対して効果的な音が自動的に加わる機能です。付加される音は、伴奏スタイル(リズム)や演奏内容によって異なります。

コードシーケンサー

- **コードシーケンサーボタン**(⇒20ページ)
コード進行(曲の中でのコードの移り変わり)を記憶させることができ、それを後で自由に再生できます。そして、それに合わせて演奏することができます。
レコードボタン；コード進行を記憶させる時に押します。
プレイボタン；記憶させた内容を再生する時に押します。



リアパネル

- **ヘッドホン/AUX出力端子**(⇒23ページ)
PSR-37の音を出力する端子です。ヘッドホンを接続して夜間練習したり、キーボードアンプやステレオと接続して、より大きな音で鳴らすことができます。
この端子にプラグを差し込むと、PSR-37のスピーカーからは音が出なくなります。
- **電源アダプター接続用端子**(⇒2ページ)
付属の電源アダプター・PA-1Bを接続するための端子です。PA-1Bを接続すると、家庭用の電源コンセントから電源をとって使用できるようになります。
- **MIDI端子**(⇒23ページ)
他のMIDI(ミディ)機器と接続するための端子です。他のMIDI機器と接続すると、MIDIコントロールを行えるようになります。

*1: ●の[オートベースコードスイッチ]による演奏モードの指定により、高音側の鍵盤および低音側の鍵盤(オートベースコード用鍵盤)で弾いた音の音色対応は次のように変わります。

- ・シングルフィンガーまたはフィンガードの場合：
高音側鍵盤……高音側音色、
低音側鍵盤……自動設定

- ・スプリット：
高音側鍵盤……高音側音色、
低音側鍵盤……低音側音色

- ・オフ：
全鍵盤……高音側音色

*2: ●の[オートベースコードスイッチ]により、演奏モードがシングルフィンガーまたはフィンガードになっているとベース、コード、リズムからなる伴奏を鳴らすことが可能。ただしリズムは、オフまたはスプリットになっていても鳴らすことが可能です。

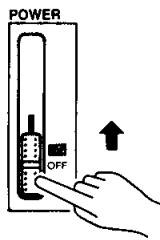
3. ステップ1 (基本編)

1. デモンストレーション曲を聴いてみよう

PSR-37にはお手本としてデモンストレーション曲が入っており、いつでも自由に聴くことができます。

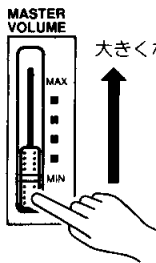
① パワースイッチをオン

パワースイッチをオンにして電源を入れます。電源が入ると、LEDディスプレイに00が表示されます。



② 音量の調節

あらかじめマスターボリュームを上方向にスライドさせて、適当な音量になるようにセットしておきます。



大きくなる

鍵盤を押して、音を出しながら調節してください。

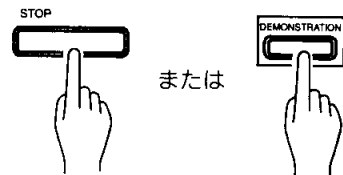
③ スタート

デモンストレーションボタンを押して、曲をスタートさせます。



④ 停止

デモンストレーション曲は、繰り返し再生されます。停止させる時は、ストップボタンまたはデモンストレーションボタンを押してください。



★デモンストレーション曲の再生は、止めるまで何回でも繰り返されます。

★音色は、曲の進行に合わせて次々と切り替わります。

★音色の切り替えが可能です。ただし、曲中の自動切り替えのところにくと、本来の設定に戻ります。

2.好きな音色で弾こう

PSR-37には100種類の音色があります。いろいろな音色に切り替えて弾いてみましょう。

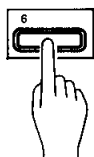
①音色の選択

ボイスリストのUPPERの所に記載されている100種類(00~99)の中から、音色を選んでください。

0~9ボタンで指定する場合

例)音色番号62の琴を選ぶ時は、

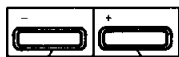
6を押して、



2を押します。



+/-ボタンで指定する場合



小さい番号の音色になる。 大きい番号の音色になる。

(+/-ボタンは、押し続けると連続的に変化します。)

★パワースイッチをオンにすると、音色は音色番号00のピアノ1になります。

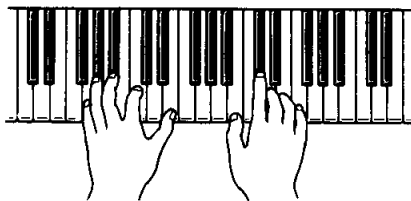
★99の状態でも+ボタンを押すと00になり、00の状態でも-ボタンを押すと99になります。

②音量調節

マスターボリュームで音量調節します。

③演奏

好きな曲を弾いてみましょう。



★いろいろな音色に切り替えて弾いてみましょう。

★同時発音数は8音(8音ポリフォニック)ですが、オートベースコード機能やスプリット機能をはじめ、リズムを使ったり、デュアルボイス機能やコードシーケンサー機能を使うと、同時発音数は少なくなります。(29ページ参照)

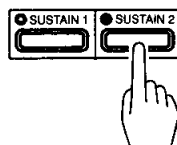
3.音に効果を!

(サスティン、デュアルボイス)

PSR-37には、様々な効果があります。実際にオンにして確かめてみましょう。

●サスティン

サスティンは、演奏音に余韻を与える効果です。サスティン1またはサスティン2ボタンを押して、ボタン左上のランプを点灯させてください。効果がオンとなります(サスティン2の方が余韻の長い効果です)。



★サスティン1と2の両方を同時にかけることはできません。

★伴奏音およびリズム音には、サスティン効果はかかりません。

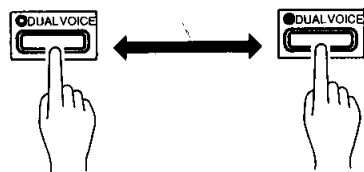
★余韻の長さは音色ごとに異なります。

●デュアルボイス

2つの音色を選んで同時に鳴らすことができる効果です。デュアルボイスボタンを押してボタン左上のランプを点灯させると、効果がオンになります。組み合わせたい音色を順に指定してください。最後に指定した音色と、1回前に指定した音色の組み合わせになります。



★1曲の中で、デュアルボイスボタンを押してオンの状態とオフの状態を使い分けると効果的です。



オフ(1音色)

↓
最後に選んだ音色

オン(2音色)

↓
最後に選んだ音色と
その前に選んだ音色
の組み合わせ

★コード音、ベース音、リズム音、低音側の音には、デュアルボイス効果はかかりません。

★デュアルボイス効果をオンにすると、演奏音の同時発音数はそれまでの半分になります。

★パワースイッチをオンにしてから一度も音色を切り替えていなければ、デュアルボイスの状態にした時、音色番号00 ピアノ1と99 オーケストラヒットの組み合わせになります。

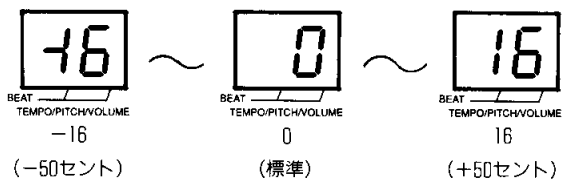
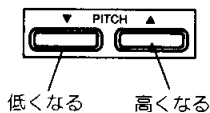
4. 他の楽器と音程を合わせるには？ (ピッチ)

ピッチコントロールボタンにより、発音の高さ(ピッチ)を微調整することができます。つまり、合奏をする場合など、この機能により他の楽器と音程を合わせることができます。

約±50セントの範囲、約3セントステップで設定できます。

(参考：100セント=半音)

音を聴きながらこきざみに合わせてください。なお、LEDディスプレイには-16~16で表示されます。



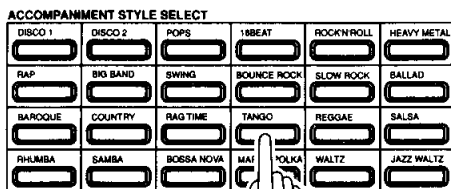
- ★ ボタンを押し続けると、値が連続的に変化します。
- ★ 操作後約3秒経過すると、この表示から音色番号表示に切り替わります。
- ★ パワースイッチをオンにした時は、いつも標準の0に戻っています。(0の時、A₃=440Hz) また、▲ボタンと▼ボタンを同時に押して0に戻すこともできます。

5. リズムに合わせて弾こう

PSR-37には24種類のリズムがあります。いろいろなリズムに切り替えて、それに合わせて弾いてみましょう。

①リズムの選択

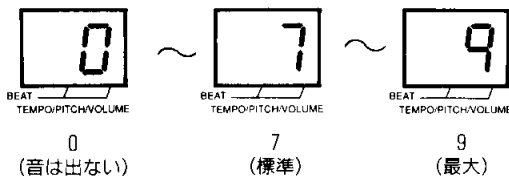
アカンパニメントスタイルセレクトボタンを押して、リズムを指定します。



- ★パワースイッチをオンにした時は、ディスコ1のリズムになっています。
- ★リズムを同時に2つ指定して、いっしょに鳴らすことはできません。

②リズム音の音量調節

リズム音はマスターボリュームの設定によっても変化しますが、アカンパニメントボリュームボタンによる設定によっても変化します。必要であれば、アカンパニメントボリュームボタンで音量調節してください。LEDディスプレイを見ながら0~9の範囲で調節できます。



- ★操作後約3秒経過すると、この表示から音色番号表示に戻ります。
- ★パワースイッチをオンにした時は、いつも標準の7に戻っています。また、▲ボタンと▼ボタンを同時に押し、7に戻すこともできます。

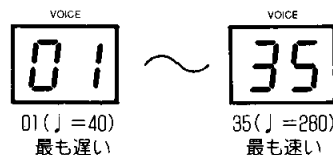
③リズムの速さ指定

LEDディスプレイを見ながら設定できますが、曲の速さが楽譜に書かれていない場合など、テンポがあらかじめ判らない時は、④の操作の後、実際に音を聴きながら設定してください。

※楽譜には「1分間の拍数」で書かれていますが、PSR-37では01~35の値で表示されます。この対応表を見て、表示値(設定値)を確認してください。

1分間の拍数
(表示値) J =

40	48	56	64	70	76	82
(01)	(02)	(03)	(04)	(05)	(06)	(07)
88	92	96	100	104	108	112
(08)	(09)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)
116	120	126	132	138	144	152
(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)
160	168	176	184	192	200	208
(22)	(23)	(24)	(25)	(26)	(27)	(28)
216	226	236	246	256	268	280
(29)	(30)	(31)	(32)	(33)	(34)	(35)

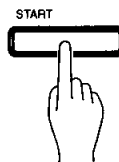


- ★リズムごとに標準テンポが異なります。リズム停止状態でリズムを切り替えた場合は、切り替えたリズムの標準テンポになります。また、パワースイッチをオンにしたり、▲ボタンと▼ボタンを同時に押した場合も標準テンポに戻ります。
- ★操作後約3秒経過すると、この表示から音色番号に戻ります。

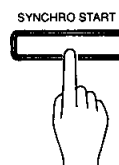
④リズムのスタート

リズムをスタートさせます。スタート方法には大きく分けて3種類ありますので、曲調や好みに合わせてお選びください。

- ・すぐにスタートさせる場合……スタートボタンを押す。

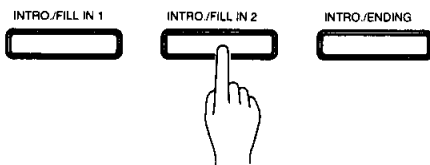


- ・演奏の開始と共にスタートさせる場合……シンクロスタートボタンを押す。



シンクロスタート待ちの時、LEDディスプレイ内の左の点が4分音符のタイミングで点滅して、リズムの速さを示します。低音側の鍵盤(オートベースコード用鍵盤)を弾くとスタートします。

- イントロのパターンからスタートさせる場合
……イントロ/フィルイン1または2、イントロ/エンディングボタンのどちらかを押す。



好みのパターンのボタンを押す。なお、イントロ/エンディングボタンを押した場合のイントロパターンは2小節、イントロ/フィルイン1または2ボタンを押した場合のイントロパターンは1小節です。

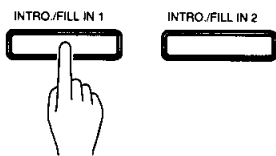
- ★リズムをスタートさせた後は、LEDディスプレイ内の点が次のように点灯します。



- ★演奏中にシンクロスタートボタンを押すとリズムが止まります。そして、オートベースコード用鍵盤を弾くと再びリズムが鳴り出します。ブレイクの時に便利です。
- ★リズムをスタートさせると、同時発音数が少なくなります。

⑥フィルイン

イントロ/フィルインボタン1またはイントロ/フィルイン2ボタンを押すことにより、フィルインのパターンを入れることができます。



- ★フィルインは、最長で1小節です(押すタイミングで長さが異なります。)また、押し続けるとフィルインのパターンが繰り返されます。
- ★フィルインパターンが鳴っている最中にもう一度押すと、その時点で普通のパターンに戻ります。

⑦別のリズムへの切り替え

演奏中、別のリズムに切り替えることもできます。

- ★リズムを切り替えても、切り替え前のリズムのテンポが維持されます。

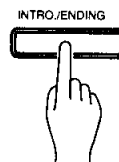
⑧停止

リズムを停止させます。停止方法には2種類ありますので、曲調や好みに合わせてお選びください。

- すぐに停止させる場合……ストップボタンを押す。



- エンディングのパターンで停止させる場合
……イントロ/エンディングボタンを押す。



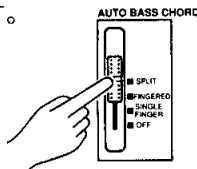
イントロ/エンディングボタンを押した小節から次の小節までエンディングパターンが鳴って停止します。エンディングパターンは2小節の長さです。なお、小節最後の1拍以降にイントロ/エンディングボタンを押した場合は、次の小節から2小節のエンディングパターンが鳴って停止します。

6. スプリット演奏をしよう

低音側の鍵盤(オートベースコード用鍵盤)を弾いた時と高音側の鍵盤を弾いた時に出る音の音色を、異なったものにして演奏できます。音色は自由に指定できます。

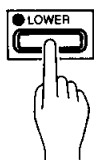
① スプリット演奏可能状態に

オートベースコードスイッチをスプリットの位置に切り替えます。



② 低音側の音色指定を可能に

LOWERボタンを押して、



ボタン左上のランプを点灯させ、低音側の音色指定および音量調節をできるようにします。

③ 低音側の音色指定

低音側の鍵盤を弾いた時に鳴るようにする音色を、ボイスセレクトボタンで指定します。指定すると、音色番号がLEDディスプレイに表示されます。選択できるのはボイスリストのLOWERの所に記載されている00～19のいずれかの音色です。

★操作後約5秒経過すると、高音側の音色番号表示に切り替わります。

★低音側の音は、弾いた鍵盤よりも1オクターブ高い音で鳴ります。

④ 低音側の音量調節

低音側の音量をアカンパニメントボリュームで調節できますので、この操作で高音側とのバランスをとってください。そして、全体的な音量はマスターボリュームで調節します。

⑤ 高音側の音色指定

高音側の鍵盤を弾いた時に鳴るようにする音色を、ボイスセレクトボタンで指定します。

★デュアルボイス機能もオンしている場合は、この状態で、高音側の2音色分を指定してください。続けて指定すればOKです。

★スプリット演奏状態にした場合は高音側の同時発音数は4音、低音側は4音ですが、デュアルボイス機能を使うと高音側は半分の2音になります。(29ページ参照)

★パワースイッチをオンにした時はいつも、高音側の音色は音色番号00のピアノ1、低音側の音色は00のピアノに戻っています。

● 練習曲 「青い影」のイントロを弾いてみましょう。左手(低音側)でベースパート、右手(高音側)でメロディーパートを弾きます。

青い影 (A WHITER SHADE OF PALE)

作曲: K. Reid & G. Brooker

● セッティング

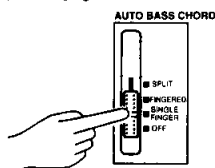
リズム	テンポ	オートベースコード	低音側音色	高音側音色
ロックンロール	09(J=92)	スプリット	17 エレクトリックベース	46 ジャズオルガン

7. シングルフィンガーコードで楽々演奏

シングルフィンガー機能を使うと、コードを押さなくても、簡単に和音+ベース音を鳴らすことができます。たとえばメジャーコードなら指1本で、その他のコードでも2,3鍵押さえるだけでOKです。和音+ベース音はオートベースコード用鍵盤を弾いて鳴らします。さらにこの状態でリズムをスタートさせると、和音+ベース音だけでなく、ベース音、和音(コード)、リズム音から成る自動伴奏を鳴らすことができます。

① シングルフィンガーコード演奏可能状態に

オートベースコードスイッチをシングルフィンガーの位置に切り替えます。



★シングルフィンガーの状態にすると、高音側の同時発音数が少なくなります。

② 高音側の音色指定

高音側の鍵盤を弾いた時に鳴るようにする音色を、ボイスセレクトボタンで指定します。

★デュアルボイス機能もオンしている場合は、この状態で、高音側の2音色分を指定してください。続けて指定すればOKです。

★低音側(オートベースコード用鍵盤)を弾いた時に鳴る音の音色は、指定したリズムの種類によって自動的に決まります。

③ 伴奏スタイルの指定

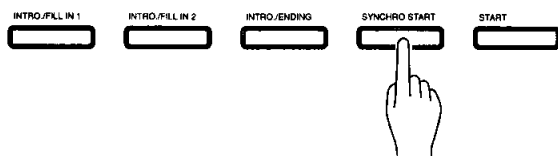
和音だけでなく、自動伴奏音全てを鳴らす場合は、伴奏スタイル(リズム)を指定します。

④ 音量調節

低音側の音量をアカンパニメントボリュームで調節できますので、この操作で高音側とのバランスをとってください。そして、全体的な音量はマスターボリュームで調節します。

⑤ スタート

自動伴奏を鳴らす場合は、スタート方法を選択します。スタート方法には大きく分けて、スタート、シンクロススタート、イントロスタートの3種類があります。



⑥ 演奏の開始

演奏を開始します。なお、自動伴奏は低音側の鍵盤(オートベースコード用鍵盤)を押した時点でスタートします。

★鍵盤の押し方

メジャーコードの場合

根音の鍵盤を押します。たとえばコードCの場合なら、



Cの鍵盤を押します。

マイナーコードの場合

根音の鍵盤と、それよりも左側の黒鍵(どれでもよい)を同時に押します。たとえばコードC_mの場合なら、



のように押します。

セブンスコードの場合

根音の鍵盤と、それよりも左側の白鍵(どれでもよい)を同時に押します。たとえばコードC₇の場合なら、



のように押します。

マイナーセブンスコードの場合

根音の鍵盤と、それよりも左側の白鍵(どれでもよい)と黒鍵(どれでもよい)を同時に押します。たとえばコードC_{m7}の場合なら、



のように押します。

★コードを変える時、指を鍵盤から離さないで動かすと、コードが思いどおりに変わらないことがあります。鍵盤から指を一旦離れた上で、次の鍵盤を押すようにしてください。

★自動伴奏の場合は、低音側の鍵盤から指を離しても、そのコードの伴奏が続きます。つまり低音側の鍵盤は、コードを変える時だけ押せばOKです。

★上記のコード以外は、次のように置き換えて押してください。

- Maj7(メジャー セブンス)
 - aug(オーギュメント)
 - dim(ディミニッシュ)
 - 6th(シックス)
 - sus4(サスフォー)
 - m7-5(マイナー セブンス フラット ファイブ)
 - m6(マイナー シックス)
 - 7sus4(セブンス サスフォー)
 - 7-5(セブンスフラット ファイブ)
- } →メジャーコード
- } →マイナーコード
- } →セブンスコード

⑦ 演奏の終了

演奏を終了します。なお自動伴奏は、ストップボタンまたはイントロ/エンディングボタンを押すと終了します。

シングルフィンガーコード一覧表

検出できるシングルフィンガーコードの一覧表です。
これら以外は、前ページで示したように置き換えて押してください。

メジャーコード

そのコード名の鍵盤を押します。

C	
C [♯] /D [♯]	
D	
D [♯] /E [♯]	
E	
F	
F [♯] /G [♯]	
G	
G [♯] /A [♯]	
A	
A [♯] /B [♯]	
B	

マイナーコード

そのコード名の鍵盤と、左の黒鍵を同時に押します。

Cm	
C [♯] m/D [♯] m	
Dm	
D [♯] m/E [♯] m	
Em	
Fm	
F [♯] m/G [♯] m	
Gm	
G [♯] m/A [♯] m	
Am	
A [♯] m/B [♯] m	
Bm	

セブンスコード

そのコード名の鍵盤と、左の白鍵を同時に押します。

C ₇	
C [#] ₇ /D ^b ₇	
D ₇	
D [#] ₇ /E ^b ₇	
E ₇	
F ₇	
F [#] ₇ /G ^b ₇	
G ₇	
G [#] ₇ /A ^b ₇	
A ₇	
A [#] ₇ /B ^b ₇	
B ₇	

マイナーセブンスコード

そのコード名の鍵盤と、左の黒鍵と白鍵を同時に押します。

Cm ₇	
C [#] m ₇ /D ^b m ₇	
Dm ₇	
D [#] m ₇ /E ^b m ₇	
Em ₇	
Fm ₇	
F [#] m ₇ /G ^b m ₇	
Gm ₇	
G [#] m ₇ /A ^b m ₇	
Am ₇	
A [#] m ₇ /B ^b m ₇	
Bm ₇	

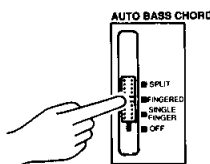
4. ステップ2(活用編)

1. フィンガードコードで演奏

フィンガード機能を使って、自動伴奏させてみましょう。フィンガード機能を使う場合は、普通のコードの押え方で低音側の鍵盤を弾きます。なおフィンガード機能を使った場合は、シングルフィンガー機能を使った場合に比べて、より多くのコードを使い分けられることができるため、演奏しようとする曲が持つ本来の微妙な雰囲気表現しやすくなります。

①フィンガードコード演奏可能状態に

オートベースコードスイッチをフィンガードの位置に切り替えます。



★フィンガードの状態にすると、高音側の同時発音数が少なくなります。

②高音側の音色指定

高音側の鍵盤を弾いた時に鳴るようにする音色を、ボイスセレクトボタンで指定します。

★デュアルボイス機能もオンしている場合は、この状態で、高音側の2音色分を指定してください。続けて指定すればOKです。

★低音側(オートベースコード用鍵盤)を弾いた時に鳴る音の音色は、指定した伴奏スタイルによって自動的に決まります。

③伴奏スタイルの指定

自分が演奏しようとする曲に最も適した伴奏スタイルを指定します。

④音量調節

低音側の音量をアカンパニメントボリュームで調節できますので、この操作で高音側とのバランスをとってください。そして、全体的な音量はマスターボリュームで調節します。

⑤スタート

スタート方法を選択します。スタート方法には大きく分けて、スタート、シンクロスタート、イントロスタートの3種類があります。

⑥演奏の開始

演奏を開始します。なお、自動伴奏は低音側の鍵盤(オートベースコード用鍵盤)を押した時点でスタートします。

★低音側の鍵盤から指を離しても、そのコードの伴奏が続きます。つまり低音側の鍵盤は、コードを変える時だけ押せばOKです。

★コードを変える時、鍵盤から指を離さないで動かすと、コードが思いどおりに変わらないことがあります。鍵盤から指を一旦離れた上で、次の鍵盤を押すようにしてください。

★フィンガードの場合は、次の13種類のコードを検出できます。その他のコードは、これらのコードに置き換えて押してください。(17、18ページの“フィンガードコード一覧表”を参照)

- ・メジャー
- ・マイナー
- ・セブンス
- ・マイナー セブンス
- ・メジャー セブンス
- ・オーギュメント
- ・ディミニッシュ
- ・シックス
- ・マイナー メジャー セブンス
- ・マイナー セブンス フラット ファイブ
- ・マイナー シックス
- ・セブンス サスフォー
- ・セブンス フラット ファイブ

★シックス、マイナーシックス、セブンスフラットファイブコードは、基本形で押さえた場合のみ検出されません。

★オーギュメントコードおよびディミニッシュコードは、押さえた鍵盤の最低音が根音となります。

★13種類のコード以外や押鍵ミスの場合は、正しい和音で鳴らなくなります。

★演奏中にシンクロスタートボタンを押すと自動伴奏が止まり、低音側の鍵盤を押すと再びスタートします。ブレークの時に便利です。

⑦演奏の終了

ストップボタンまたはイントロ/エンディングボタンを押して演奏を終了します。

●練習曲

シングルフィンガーコードまたはフィンガードコードで、「ラブ・ミー・テンダー」を弾いてみましょう。

ラブ・ミー・テンダー (LOVE ME TENDER)

作詞・作曲：F. Presley & V. Matson

●セッティング

リズム	テンポ	第一トランスコード	高音調音色
スローロック	08 (♩ = 88)	シングルフィンガーまたはフィンガード	30 クラリネット

シングルフィンガーコード
フィンガードコード

C C D7 G7 C

C D7 G7 C

C E7 Am C7 F Fm C


C A7 D7 G7 C


日本音楽著作権協会(出)許諾第8970183-901号
©1956 by ELVIS PRESLEY MUSIC, INC.
Rights for Japan assigned to CHAPPEL/INTERSONG K.K.


フィンガードコード一覧表


*マークの付いたコードは転回形、それ以外は全て基本形で書かれています。


メジャー コード


C 


C[♯]
(D[♭]) 


D 


D[♯]
(E[♭]) 


E 


F 


F[♯]
(G[♭]) 

G 


G[♯]
(A[♭]) 


A 


A[♯]
(B[♭]) 


B 


マイナー コード


Cm 


C[♯]m
(D[♭]m) 


Dm 


D[♯]m
(E[♭]m) 


Em 


Fm 


F[♯]m
(G[♭]m) 

Gm 


G[♯]m
(A[♭]m) 


Am 


A[♯]m
(B[♭]m) 


Bm 


セブンス コード


C₇ 


C[♯]₇
(D[♭]₇) 


D₇ 


D[♯]₇
(E[♭]₇) 


E₇ 


F₇ 


F[♯]₇
(G[♭]₇) 

G₇ 


G[♯]₇
(A[♭]₇) 


A₇ 


A[♯]₇
(B[♭]₇) 


B₇ * 


マイナー セブンス コード


Cm₇ 


C[♯]m₇
(D[♭]m₇) 


Dm₇ 


D[♯]m₇
(E[♭]m₇) 


Em₇ 


Fm₇ 


F[♯]m₇
(G[♭]m₇) 

Gm₇ 


G[♯]m₇
(A[♭]m₇) 


Am₇ 


A[♯]m₇
(B[♭]m₇) 


Bm₇ * 


メジャー セブンス コード


CM₇ 


C[♯]M₇
(D[♭]M₇) 


DM₇ 


D[♯]M₇
(E[♭]M₇) 


EM₇ 


FM₇ 


F[♯]M₇
(G[♭]M₇) 

GM₇ 


G[♯]M₇
(A[♭]M₇) 


AM₇ 


A[♯]M₇ * 


Bm₇ * 


オーギュメント コード


Caug 


C[♯]aug
(D[♭]aug) 


Daug 


D[♯]aug
(E[♭]aug) 


Eaug 


Faug 


F[♯]aug
(G[♭]aug) 

Gaug 


G[♯]aug
(A[♭]aug) 


Aaug 


A[♯]aug
(B[♭]aug) 


Baug 


ディミニッシュ コード


Cdim 


C[♯]dim
(D[♭]dim) 


Ddim 


D[♯]dim
(E[♭]dim) 


Edim 


Fdim 


F[♯]dim
(G[♭]dim) 

Gdim 


G[♯]dim
(A[♭]dim) 


Adim 


A[♯]dim
(B[♭]dim) 


Bdim 


シックス コード


C₆ 


C[♯]₆
(D[♭]₆) 


D₆ 


D[♯]₆
(E[♭]₆) 


E₆ 


F₆ 


F[♯]₆
(G[♭]₆) 

G₆ 


G[♯]₆
(A[♭]₆) 


A₆ 


A[♯]₆
(B[♭]₆) 


B₆ 


マイナー メジャー セブンス
コード


CmM₇ 


C[♯]mM₇
(D[♭]mM₇) 


DmM₇ 


D[♯]mM₇
(E[♭]mM₇) 


EmM₇ 


FmM₇ 


F[♯]mM₇
(G[♭]mM₇) 

GmM₇ 


G[♯]mM₇
(A[♭]mM₇) 


AmM₇ 


A[♯]mM₇*
(B[♭]mM₇) 


BmM₇* 


マイナー セブンス フラット
ファイブ コード


Cm₇⁻⁵ 


C[♯]m₇⁻⁵
(D[♭]m₇⁻⁵) 


Dm₇⁻⁵ 


D[♯]m₇⁻⁵
(E[♭]m₇⁻⁵) 


Em₇⁻⁵ 


Fm₇⁻⁵ 


F[♯]m₇⁻⁵
(G[♭]m₇⁻⁵) 

Gm₇⁻⁵ 


G[♯]m₇⁻⁵
(A[♭]m₇⁻⁵) 


Am₇⁻⁵ 


A[♯]m₇⁻⁵*
(B[♭]m₇⁻⁵) 


Bm₇⁻⁵* 


マイナー シックス コード


Cm₆ 


C[♯]m₆
(D[♭]m₆) 


Dm₆ 


D[♯]m₆
(E[♭]m₆) 


Em₆ 


Fm₆ 


F[♯]m₆
(G[♭]m₆) 

Gm₆ 


G[♯]m₆
(A[♭]m₆) 


Am₆ 


A[♯]m₆
(B[♭]m₆) 


Bm₆ 


セブンス サスフォー コード


C₇SUS₄ 


C[♯]₇SUS₄
(D[♭]₇SUS₄) 


D₇SUS₄ 


D[♯]₇SUS₄
(E[♭]₇SUS₄) 


E₇SUS₄ 


F₇SUS₄ 


F[♯]₇SUS₄
(G[♭]₇SUS₄) 

G₇SUS₄ 


G[♯]₇SUS₄
(A[♭]₇SUS₄) 


A₇SUS₄ 


A[♯]₇SUS₄
(B[♭]₇SUS₄) 


B₇SUS₄* 


セブンス フラット ファイブ
コード


C₇⁻⁵ 


C[♯]₇⁻⁵
(D[♭]₇⁻⁵) 


D₇⁻⁵ 


D[♯]₇⁻⁵
(E[♭]₇⁻⁵) 


E₇⁻⁵ 


F₇⁻⁵ 


F[♯]₇⁻⁵
(G[♭]₇⁻⁵) 

G₇⁻⁵ 

G[♯]₇⁻⁵
(A[♭]₇⁻⁵) 

A₇⁻⁵ 

A[♯]₇⁻⁵*
(B[♭]₇⁻⁵) 

B₇⁻⁵* 

2. ソロスタイルでパフォーマンス(ソロスタイルプレイ)

ソロスタイル機能をオンにすると、演奏中の曲に自動的に付加音や効果が加わるようになります。どのような付加音や効果が加わるかは、伴奏スタイルごとに決まっています。たとえばロックンロールを指定した場合には、ハーモニー、カウンターメロディー、グリッサンド音が自動的に加わります。また、レゲエを指定した場合には、「かえるの合唱」のように、高音側の演奏内容が次の小節に自動的に繰り返される。といった具合です。色々な伴奏スタイルを選んで演奏し、実際にどのようなようになるか確認してみてください。なお、この機能を使った場合は高音側の鍵盤での演奏が単音に制限されます。

①演奏モードの指定

オートベースコードスイッチで、シングルフィンガーで演奏するかフィンガードで演奏するか指定します。

②ソロスタイルプレイをオン

ソロスタイルプレイボタンを押して、ソロスタイルプレイ機能をオンにします。

SOLO STYLEPLAY



ボタン左上のランプを点灯させた状態が、オンの状態

- ★この操作をした時点で、オートベースコードスイッチがフィンガードの位置になっている場合以外は、必ずシングルフィンガーに自動設定されます。
- ★この操作をした時点で、自動的にシンクロスタート待機状態になります。

③伴奏スタイルの指示

伴奏スタイル(リズム)を指示します。

④演奏の開始

演奏を開始します。オートベースコード用鍵盤を弾くと、自動伴奏がスタートします。

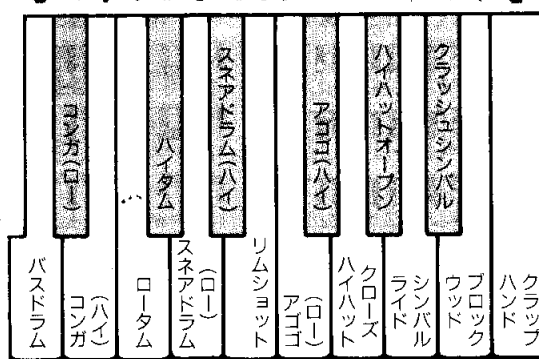
⑤演奏の終了

ストップボタンまたはイントロ/エンディングボタンを押して、演奏を終了します。

- ★リズムを停止させた状態でも、リズムによっては付加音や効果音が加わるものがあります。
- ★スタイルによっては高音側の演奏をレガートで弾くと、後で押された音が発音しないことがあります。

3. 打楽器を担当してしまおう(キーボードパーカッション)

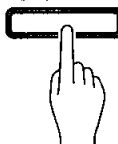
キーボードパーカッション機能を使うことにより、自分でリズムを奏でることが可能になります。キーボードパーカッションの状態にすると、16鍵(キーボードパーカッション用鍵盤)に各打楽器が割り当てられますので、鍵盤を押すことにより音を出すことができます。他の楽器とアンサンブルをしたり、PSR-37で曲を演奏している途中で打楽器音をフィルインすることができます。



①キーボードパーカッションをオン

キーボードパーカッションボタンを押して、キーボードパーカッション機能をオンにします。

KEYBOARD PERCUSSION



オンにすると、LEDディスプレイの表示が次のようになります。



もう一度押すとオフになります。

②演奏します。

キーボードパーカッション用鍵盤を、リズムどおりにうまく組み合わせて押してください。

- ★打楽器音の音量はマスターボリュームの設定によっても変化しますが、アカンパニメントボリュームによる設定によっても変化します。必要であれば、アカンパニメントボリュームで音量調節してください。
- ★PSR-37にあらかじめセットされているリズムを鳴らしながら、この機能を働かせることはできません。
- ★PSR-37にあらかじめセットされているリズムを鳴らしている途中で、キーボードパーカッションボタンを押せば、リズムを休止させることができ、キーボードパーカッション用鍵盤を押して自分でリズムのフィルインを演奏することができます。再びリズムを鳴らす時は、もう一度キーボードパーカッションボタンを押してください。

5. ステップ3(活用編II)

1. コード進行を記憶させよう (コードシーケンサー)

コード進行を記憶させることができます。記憶させることができるのは、リズムをスタートさせてから停止させるまでの間です。

コード進行を記憶させておけば、それを再生しながら他のパートを演奏することができますので、数パートで構成された曲でも簡単に演奏できるようになります。なおコード進行を記憶させた後、それに合わせて演奏する時、全ての鍵盤を使用できます。(高音側の鍵盤でなければならないという鍵盤の制限がなくなります。)

- ★コード以外に、伴奏スタイル番号、テンポ、イントロ、フィルイン、エンディング、ストップ、アカンパニメントボリュームを記憶させることができます。
- ★最大で約200以上のコードを記憶させることができます。
- ★16分音符単位で記憶させることができます。
- ★記憶後、パワースイッチをオフにすると記憶させたコード進行は消えてしまいます。

コード進行の記憶

①伴奏スタイルの選択

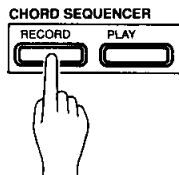
曲に合った伴奏スタイルを選んでください。

②演奏モードの指定

オートベースコードスイッチで、シングルフィンガーで記憶するかフィンガードで記憶するか指定します。

③記憶スタート待ちの状態に

コードシーケンサーのレコードボタンを押します。すると、記憶スタート待ちの状態になります。



- ★記憶スタート待ちの状態になるとメトロノーム音が1拍ごとに鳴り出し、LEDディスプレイ内左側の点も1拍ごとに点滅します。
- ★この操作をした時点で、オートベースコードスイッチがフィンガードの位置になっている場合以外は、必ずシングルフィンガーに自動設定されます。
- ★この操作をした時点で、シンクロスタート待ちの状態になります。

④テンポ調節

演奏しやすい速さにします。

⑤必要に応じてスタート方法を変更

シンクロスタートをやめて、スタートやイントロスタートに変更することもできます。変更する場合はそれぞれのボタンを押しますが、ボタンを押した時点から記憶が開始されます。

⑥演奏の開始

シンクロスタートの場合には、演奏を開始した時点から記憶が開始されます。曲の流れに従ってコードを押していってください。

⑦演奏の終了

ストップボタンまたはイントロ/エンディングボタンを押して演奏を終了します。リズムが止まった時点で記憶完了です。

- ★コードシーケンサーのレコードボタンやプレイボタンを押して、記憶完了させることもできます。
- ★記憶容量が一杯になると、記憶がそこで強制的に完了します。

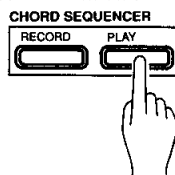
★記憶しなすと、前の内容が消えます。

★記憶中に演奏を失敗した時は、シンクロスタートボタンを押してください。⑥の操作からやり直すことができます。

コード再生

①再生スタート待ちの状態に

コードシーケンサーのプレイボタンを押します。すると、再生スタート待ちの状態になり、LEDディスプレイ内左側の点が1拍ごとに点滅します。



★この操作をした時点で、シンクロスタート待ちの状態になります。

②再生の開始

鍵盤またはスタートボタンを押して、再生を開始させます。またイントロ/フィルインボタン1、2またはイントロ/エンディングボタンを押して、イントロパターンを付けて再生させることもできます。

③必要に応じて……

再生音に合わせて、演奏することができます。

④再生の終了

最後まで再生されると自動的に停止しますが、途中でストップボタンやイントロ/エンディングボタンを押して終了させることも可能です。

★ストップボタンで終了させた時以外は、再生終了後に再び再生スタート待ちの状態になります。再生スタート待ちを解除する時は、ストップボタンまたはコードシーケンサーのプレイボタンを押して、LEDディスプレイ内左側の点の点滅を消灯させてください。

★テンポや伴奏スタイルを変えて再生させたり、フィルインを入れることも可能です。

★同時発音数には制限があります。

●練習曲

とんぼ

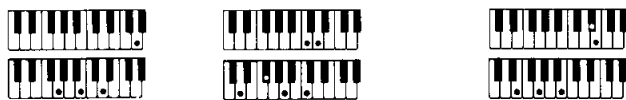
作詞・作曲：長瀬剛

コードシーケンサーの機能を使い、あらかじめコードを記憶させておくと演奏しやすくなります。
コードはシングルフィンガーコード、フィンガードコードのどちらで弾いてもかまいません。

●セッティング

ロックンロール	14(J=112)	33 サクソフォーン	サスティンオン
---------	-----------	------------	---------

シングル
フィンガー
コード
フィンガード
コード



G D7 Em

Woo Woo- Woo WooWooWoo-



C D7 Em C

音色：34 ハーモニカ



3 G Am7

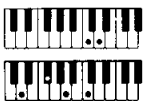
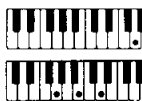
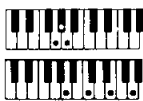
コッコ ツとアスファルトに きざ む あしお とをふみしめるた びに おれは
らなこころたちが みえ て やりき れないよるをかぞ え のがれ



1 G

おれーで ありつ づきたい そうね がった うらは
られない やみの

シングル
フィンガー
コード
フィンガード
コード

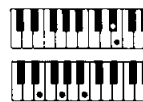
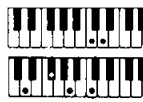
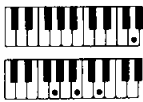


音色: 44 シンセブラス2

2

Am7 G D7 G C

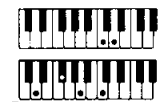
なかで きょうも ねむったふりをする しに たいくらいにあこがれた はなの
いたにがいすなを かむと ねじふ



G D7 Em

1

みやこだ いとう きょう うすっこ べらな ポストバッグ きたへきたへむ かった ざらつ
せられた しょうじき さが いまこ



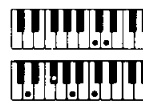
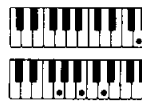
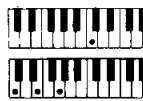
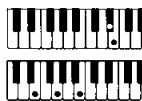
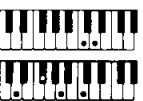
フィルイン1

音色: 47 ロックオルガン

2

D7 G G

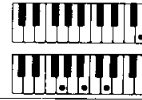
ろに なって や けにほねみにしみる あ あ しあわ
あ しあわ



D7 Em C G D7

1

せのー とんぼ よー どこへー おまえは どこへー とーんでゆ
せのー とんぼ がー ほー ら したを



エンディング

G D7 G D7 G

2

く あ だしてー わらってらー

2. 他の機器と接続するには？

リアパネルの付属端子を使って、各機器と接続できます。

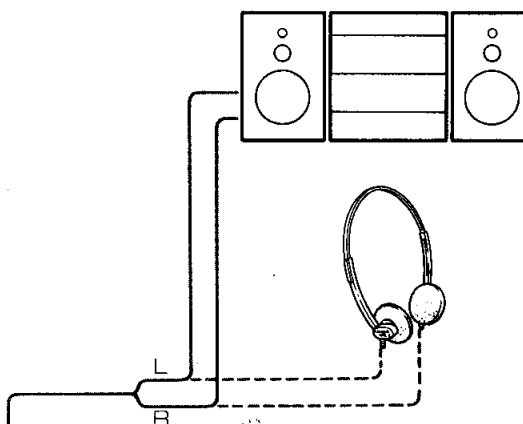
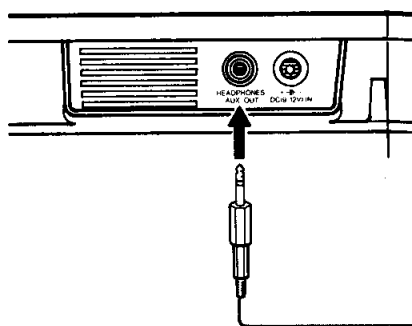
・ヘッドホン/AUX出力端子

この端子を使いステレオなどに接続して、より大きな音で鳴らしたり、カセットテープに演奏を録音することができます。また、ヘッドホン接続して外に音を出さずに演奏できます。

※ステレオに接続した時は PSR-37 のマスターボリュームは8分目にして、ステレオのボリュームで音量を調節してください。

※この端子にプラグを差し込むと、PSR-37のスピーカーからは音が出なくなります。

※ステレオに接続する場合は、接続コード(27ページ参照)とステレオ変換プラグが必要です。



・電源アダプター接続用端子(2ページ参照)

付属の電源アダプター・PA-1Bを接続するための端子です。

・MIDI端子(23ページ参照)

この端子を使い他のMIDI機器と接続して、MIDIに関する情報をやりとりさせることができます。そして、様々なコントロールが可能です。

3. MIDI機能でステップアップ

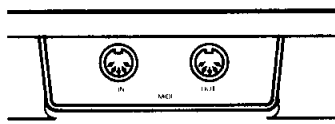
PSR-37はMIDI機能(MIDI端子)をもった楽器です。ここでは、MIDI端子の説明やMIDI機能を使ってできること、MIDIに関する設定方法を順に紹介します。

MIDIとは？

MIDIという言葉はミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェイス(Musical Instrument Digital Interface)の頭文字をとったもので、“ミディ”と読みます。MIDIは、2台以上のMIDI製品を接続して、それらの間で、演奏にまつわる様々なコントロールをさせようという目的で考え出された世界統一規格です。

本機のMIDI端子

本機には、次のように2種類のMIDI端子があります。



MIDI OUT(ミディアウト)

PSR-37の演奏情報をデジタル信号で出力します。

MIDI IN(ミディイン)

他のMIDI製品からの演奏情報を入力します。

★MIDI接続には、別売のMIDIケーブルが必要です。

MIDIケーブル (MIDI-15: 15m) ¥3,000
(MIDI-03: 3m) ¥1,100

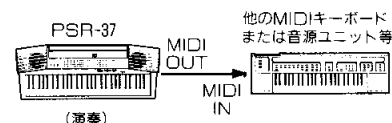


MIDIのできること

MIDI製品と一口にいても実に様々なものがありますので、ここでは代表的なものを選んで“できること”を紹介します。接続する製品の取扱説明書も合わせてご覧ください。

MIDI OUT端子を使ってできること

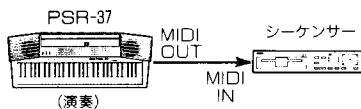
◆MIDIキーボードまたは音源ユニットを接続した場合



- ★PSR-37で演奏すると、接続した製品もそれぞれ自身の音色で同時に鳴り、音に厚みができます。
- ★PSR-37で音色を切り替えると、接続した製品の音色も同時に切り替わります。

◆MIDIシーケンサーを接続した場合

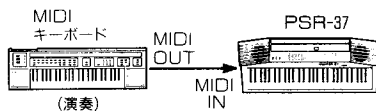
(MIDI信号などデジタル情報で演奏を記録する機器は、一般にシーケンサーと呼ばれています。)



- ★PSR-37で演奏する内容を、MIDIシーケンサーに記録できます。MIDIシーケンサーには多くの曲を記録しておくことができ、後でそれを自由に再生できます。
- ★弾いた音符の情報だけでなく、音色の切替情報も同時に記録できます。

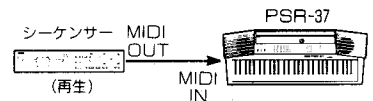
MIDI IN端子を使ってできること

◆MIDIキーボードに接続した場合



- ★外部のMIDIキーボードで演奏すると、PSR-37が同時に鳴り、音に厚みができます。
- ★外部のMIDIキーボードで音色を切り替えると、PSR-37の音色も同時に切り替わります。
- ★サステイン効果のオン/オフ情報を受け取ると、PSR-37もコントロールされます。

◆MIDIシーケンサーに接続した場合



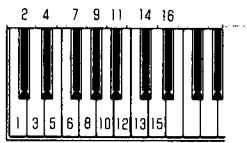
- ★MIDIシーケンサーに記録済みの演奏内容を、PSR-37の音色で再生できます。

MIDIのモード設定と機能

設定方法

*操作①から④に移る時、MIDIボタンは離さないでください。

設定項目	操作① (MIDIボタンを押しながら)	操作② (MIDIボタンを押しながら)	表示および設定範囲		
リモートコントロールモード/標準音色モードの切替	ボイスセレクトボタンの を押して指定する。		リモートコントロールモード 	標準音色モード 	
MIDI送信チャンネルの設定	ボイスセレクトボタンの を押す。	該当するオートベースコード用鍵盤を押して指定する。(図A参照)	チャンネル1 	チャンネル16 	
MIDI受信チャンネルの設定	ボイスセレクトボタンの を押す。	該当するオートベースコード用鍵盤を押して指定する。(図B参照)	オムニオン+チャンネル1 	オムニオフ+チャンネル1 	オムニオフ+チャンネル16
現在、標準音色モードの場合…… 操作③：操作②で指定したチャンネルのオン/オフを、 ボタンを押しながら、ボイスセレクトボタンの / で指定する。 オン , オフ					
操作④：操作③を繰り返して、他のチャンネルも指定する。					
スプリット送信モードオン/オフの切替(リモートコントロール時のみ設定可能)	ボイスセレクトボタンの を押す。	ボイスセレクトボタンの / を押して指定する。	オン 	オフ 	
プログラムチェンジ&コントロールチェンジ・キャンセルオン/オフの切替	ボイスセレクトボタンの を押す。	ボイスセレクトボタンの / を押して指定する。	オン 	オフ 	
外部クロック/内部クロックの切替(リモートコントロール時のみ設定可能)	ボイスセレクトボタンの を押す。	ボイスセレクトボタンの / を押して指定する。	外部クロック 	内部クロック 	
ローカルコントロールオン/オフの切替(リモートコントロール時のみ設定可能)	ボイスセレクトボタンの を押す。	ボイスセレクトボタンの / を押して指定する。	オン 	オフ 	
リズム受信チャンネルの設定(標準音色モード時のみ有効)	ボイスセレクトボタンの を押す。	該当するオートベースコード用鍵盤を押して指定する。(図A参照)	チャンネル1 	チャンネル16 	



図A



図B

◆リモートコントロールモード/標準音色モードの切替

リモートコントロールモードは、PSR-37を送信側に接続してマスターキーボードとして使用することを前提としたモードです。通常はこのモードにしておきます。なお、このモードでPSR-37を受信側にした場合は、ある1つのチャンネルの情報のみ受信できます。

これに対し標準音色モードは、PSR-37を受信側に接続して音源として使用すること前提としたモードです。標準音色モードにすると、同時に複数のチャンネルの情報を受信できるようになります。たとえばMIDIシーケンサーに記録されている複数のチャンネルの演奏情報をPSR-37に受信させ、同時に複数の音色で鳴らしたい時に、標準音色モードにします。

- ★チャンネルについては、次項の“MIDIチャンネルの設定”を参照。
- ★パワースイッチをオンにした時は、必ずリモートコントロールモードとなっています。
- ★同時発音数は基本的に演奏音が5音、リズム音が3音です。

◆MIDIチャンネルの設定

送信チャンネルと受信チャンネルを、それぞれ任意に設定できます。

- ★パワースイッチをオンにした時は、必ず送信チャンネルはチャンネル1、受信チャンネルはオムニオフ+チャンネル1となっています。
- ★オムニオンはチャンネル設定に関係なく、どのチャンネルメッセージでも受信できる状態で、オムニオフは指定したチャンネルの情報だけを受信できる状態です。

◆スプリット送信モードオン/オフの切替

シングルフィンガー、フィンガード、スプリット状態の時に、スプリット送信モードオンという状態にすると、低音側と高音側の演奏情報が、異なるチャンネルNo.で送信されるようになります。

「PSR-37上で低音部と高音部を異なる音色で鳴らすだけでなく、外部の製品側でもそうしたい。」という場合、スプリット送信モードオンにしてください。

- ★低音側の演奏情報はMIDIチャンネル2で送信されますので、外部の製品のMIDI受信チャンネルを2に合わせてください。

また高音側の演奏情報は“MIDIチャンネルの設定”のところで指定したMIDIチャンネルで送信されます。

- ★低音側と高音側の演奏情報を、MIDIシーケンサーに別々のチャンネルで記録することも可能です。
- ★PSR-37を受信側にした場合は、この機能は一切関係ありません。
- ★標準音色モードの場合は、この機能は存在しません。
- ★パワースイッチをオンにした時は、必ずスプリット送信モードオフとなっています。

◆プログラムチェンジ&コントロールチェンジ・キャンセルオン/オフの切替

プログラムチェンジ&コントロールチェンジ・キャンセルオンという状態にすると、PSR-37で音色を切り替えたり、演奏音の音量を調節したり、サステインボタンをオン/オフしても、MIDI OUT端子へそれらの情報を出力しなくなります。また、MIDI IN端子からそれらの情報を受けてもPSR-37の状態は変わりません。

つまり、PSR-37だけで単独に操作したい場合(他の機器と連動させたくない場合)には、キャンセルオンにしてください。

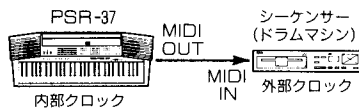
- ★パワースイッチをオンにした時は、必ずプログラムチェンジ&コントロールチェンジ・キャンセルオフとなっています。
- ★この機能の設定は、リモートコントロールモードの場合は送受信共に有効ですが、標準音色モードの場合は送信のみ有効です。

◆外部クロック/内部クロックの切替

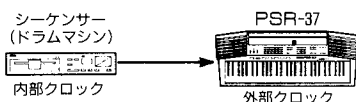
本機のリズムを制御するクロックを選択できます。

外部クロックにすると、PSR-37のリズムの速さが外部のシーケンサーやドラムマシンによってコントロールされるようになり、内部クロックにすると、PSR-37のリズムの速さはPSR-37自身によってコントロールされるようになります。

- ★外部シーケンサーやドラムマシンの再生スピードを、PSR-37のリズムの速さに合わせる場合は、次のようにセットしてください。



- ★PSR-37のリズムの速さを、外部のシーケンサーやドラムマシンの再生スピードに合わせる場合は、次のようにセットしてください。



- ★パワースイッチをオンにした時は、必ず内部クロックとなっています。

- ★標準音色モードの場合は、この機能は存在しません。

◆ローカルコントロールオン/オフの切替

ローカルコントロールオフという状態にすると、PSR-37で演奏したにもかかわらずPSR-37自身では鳴らなくなります。ただしMIDI OUT端子からは、オン/オフにかかわらず演奏情報が出力されます。

つまりローカルコントロールオフは、あえて外部の製品側だけで鳴らしたい場合に、PSR-37で音が出ないようにするためのものです。

- ★PSR-37を受信側にした場合は、この設定は一切関係ありません。
- ★パワースイッチをオンにした時は、必ずローカルコントロールオンとなっています。
- ★標準音色モードの場合は、この機能は存在しません。常にローカルコントロールオフの状態となっています。

◆リズム受信チャンネルの設定

(標準音色モード時のみ設定可能)

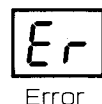
リズム音(打楽器音)の発音情報に対する受信チャンネルを設定できます。送信側のチャンネルと一致させてください。(前述の“受信チャンネルの設定”はリズム以外のパートに対するものです。)

- ★ここで指定したチャンネルと、リズムパート以外のチャンネルが重複した場合は、リズムが優先されます。
- ★パワースイッチをオンにした時は、必ずリモートコントロールモードで、オムニオフ+受信チャンネル1になっています。またこの状態から、標準音色モードに切り替えた時は、本設定はチャンネル16となっています。
- ★リモートコントロールモードの場合は、チャンネル設定はできますが、機能しません。
- ★この機能の設定は低音側の音には一切関係ありません。

MIDIエラー表示

MIDI受信の際、送受信間のトラブルのために正確に情報がやりとりされなかったり、送受信バッファの容量を越えるデータが生じた場合は、次のようにMIDIエラーを意味する文字が表示されます。

この表示になった場合はパワースイッチをオンにしておいて、再実行してください。ただし、送受信バッファの容量オーバーによるエラーの場合は、あらかじめデータをいくつかに分割するなどしてください。



MIDIインプリメンテーションチャート

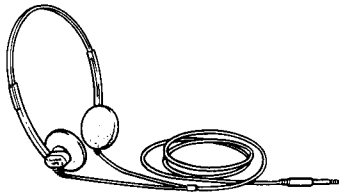
ファンクション	送	信	受	信	備	考
ベーシック チャンネル 電源ON時 設定可能	1チャンネル 1~16チャンネル		1チャンネル 1~16チャンネル			
モード 電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****		モード3 オムニ・オン、オムニ・オフ ×			リモートコントロールモード の場合のみ
ノート ナンバー 音域	36~96 *****		36~96 ※1 36~96 ※2			
ペロシティ ノート・オン ノート・オフ	× 9nH、v=64 ※3 × 9nH、v=0		○ ※4 ×			
アフター キー別 タッチ チャンネル別	× ×		× ×			
ピッチ・ベンダー	×		○ 0~2 semi ※4			7ビット分解能
コントロール 07 チェンジ 64	○ ○		○ ※4 ○			ボリューム サスティン
プログラム チェンジ 設定可能範囲	○ 0~99 *****		○ 0~99 ※5 0~99			
エクスクルーシブ	×		○			
コモン ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×		× × ×			
リアル タイム クロック コマンド	○ ○		○ ○			リモートコントロールモード の場合のみ
その他 ローカルON/OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× × ○ ×		○ ○ (122~125) ○ ×			
備 考	※1 標準音色モードの場合は1~127 ※2 標準音色モードの場合は24~102 ※3 標準音色モードの場合はv=127 ※4 標準音色モードの場合のみ ※5 標準音色モードの場合は0~127					

モード1 : オムニ・オン、ポリ モード2 : オムニ・オン、モノ ○ : あり
 モード3 : オムニ・オフ、ポリ モード4 : オムニ・オフ、モノ × : なし

6. 資料

1. オプション(別売品)のご紹介

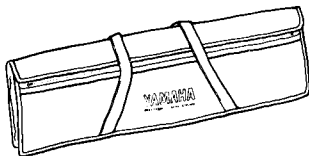
ステレオヘッドホン・HPE-3 ¥3,000



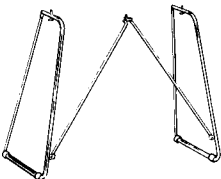
MIDIケーブル・MIDI-03(3m) ¥1,100



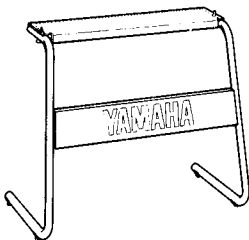
専用ソフトケース・SCC-32 ¥6,000



スタンド・L-2 ¥6,000



スタンド・L-4 ¥9,000



※表示の価格には、消費税は含まれていません。

2. 仕様

- 鍵盤
- 一段鍵盤引継(C₁-C₆)
- ボイス(100音色)
- 00 ピアノ1
- 01 ピアノ2
- 02 ホンキートンクピアノ
- 03 エレクトリックピアノ1
- 04 エレクトリックピアノ2
- 05 ハープシコード
- 06 クラビ
- 07 シンセクラビ
- 08 チェレスタ
- 09 トーイピアノ
- 10 バイブス
- 11 チャイム
- 12 シロホン
- 13 マリンバ
- 14 バンブーマリンバ
- 15 ティンパニ
- 16 スチールドラム
- 17 カリンバ
- 18 ガムラン
- 19 ミュージックボックス
- 20 ストリングス
- 21 ピッチストリングス
- 22 シンセストリングス1
- 23 シンセストリングス2
- 24 バイオリン
- 25 チェロ
- 26 ハープ
- 27 フルート
- 28 パンフルート
- 29 リコーダー
- 30 クラリネット
- 31 オーボエ
- 32 バスーン
- 33 サクソフォーン
- 34 ハーモニカ
- 35 アコーデオン
- 36 バグパイプ
- 37 トランペット
- 38 ミュートトランペット
- 39 トロンボーン
- 40 ホルン
- 41 チューバ
- 42 ブラスアンサンブル
- 43 シンセベース1
- 44 シンセベース2
- 45 バイブオルガン
- 46 ジャズオルガン
- 47 ロックオルガン
- 48 ストリートオルガン
- 49 リードオルガン
- 50 ヒューマンボックス
- 51 シンセボックス
- 52 ホイッスル
- 53 クラシックギター
- 54 フォークギター
- 55 ジャズギター
- 56 ロックギター
- 57 ディストーションギター
- 58 ミュートギター
- 59 パンジョ
- 60 マンドリン
- 61 シタール
- 62 箏
- 63 三味線
- 64 アコースティックベース
- 65 ボーベース
- 66 エレクトリックベース
- 67 スラップベース
- 68 フレットレスベース
- 69 シンセベース1
- 70 シンセベース2
- 71 シンセベース3
- 72 アナログシンセ
- 73 リードシンセ
- 74 シンセミュージックボックス
- 75 スペースフルート
- 76 アクア
- 77 ランドスコープ
- 78 ファズプラス
- 79 メタリックリード
- 80 クリスタル
- 81 アイズブロック
- 82 シンセタム
- 83 サンバホイッスル
- 84 アフリカンパーカッション
- 85 鳥
- 86 テジスイープ
- 87 ハンマーショット
- 88 クリスタルブロック
- 89 インベーター
- 90 ショックアラーム
- 91 アッ
- 92 ウォータードロップ
- 93 エマーゼンシー
- 94 擬音
- 95 レーシングサーキット
- 96 スクレープ
- 97 コンストラクション
- 98 波
- 99 オーケストラヒット
- 00 ピアノ
- 01 エレクトリックピアノ
- 02 ハープシコード
- 03 クラビ
- 04 バイブス
- 05 ミュージックボックス
- 06 ストリングス
- 07 フルート
- 08 アコーデオン
- 09 プラス
- 10 シンセベース
- 11 ホルン
- 12 オルガン
- 13 ジャズギター
- 14 ディストーションギター
- 15 シンセヴォックス
- 16 アコースティックベース
- 17 エレクトリックベース
- 18 シンセベース1
- 19 シンセベース2
- ボイスセレクトボタン(0~9, +, -)
- ボイスリスト(00~99)
- ローボタン
- 効果
- サステイン1,2、デュアルボイス
- ボリューム
- アカンパニメントボリューム、マスターボリューム
- アカンパニメント
- アカンパニメントスタイルセレクトボタン(24種類)
- ディスク1、ディスク2、ポップス、16ビート、ロックロール、ヘビーメタル、ラップ、ビッグバンド、スイング、パワンスロック、スローロック、バラード、パワロック、カントリー、ラグタイム、タンゴ、レゲエ、サルサ、ルンバ、サンバ、ボサノバ、マーチ/ポルカ、ワルツ、ジャズワルツ
- リズムコントロール
- テンポ(▲▼)、シンクロスタート、スタート、ストップ、イントロ/エンディング、イントロ/フィルイン1、イントロ/フィルイン2
- キーボードパーカッション
- キーボードパーカッションボタン
- キーボードパーカッション用鍵盤
- バスターム、コンガ(ロー)、コンガ(ハイ)、ロータム、ハイタム、スネアドラム(ロー)、スネアドラム(ハイ)、リムショット、アゴゴ(ハイ)、ハイハットクローズ、ハイハットオープン、ライドシンバル、クラッシュシンバル、ウッドブロック、ハンドクラップ
- オートベースコードスイッチ
- オフ/シングルフィンガー/フィンガード/スプリット
- コードシークサー
- レコード、プレイ
- 記憶コード数: 約200
- その他コントロール
- パワースイッチ、ピッチ(▲▼)、ソロスタイルプレイ、デモストレーション、MIDI
- ディスプレイ
- 2桁LEDディスプレイ(ボイス、テンポ、ピッチ、アカンパニメントボリューム、拍子)
- 付属端子
- ヘッドホン/AUX出力端子、MIDI端子(IN, OUT)、電源アダプター接続用端子
- メインアンプ
- 2.5W×1
- スピーカー
- 12cm(8Ω)×2
- 定格電源
- DC9V: 電源アダプター・PA-1B
- DC V 単1乾電池6本
- 消費電力
- 電源アダプター使用時: 6.5W
- 乾電池使用時: 3.0W
- 外装仕上げ
- スチロール樹脂・アクリルラッカー塗装
- 寸法(前面立ち取り外し時)
- (開口)358mm×(奥行)365mm×(高さ)123mm
- 重量
- 6.0kg(乾電池重量含まず)
- 付属品
- 電源アダプター・PA-1B、譜面立て

3. おかしいな?と思ったら

おかしいな?と思ったら、この表を見てください。

現象	原因	解決法
パワースイッチをオンまたはオフにした時、“ポツン”と音が出る。	電気が流れたため。	ご心配いりません。
スピーカーから全く音が出ない。	音量が下がっている。	マスターボリュームを上げてください。
	ヘッドホン/AUX出力端子にプラグを差しているため。	プラグを抜いてください。
	ローカルコントロールオフになっている。	ローカルコントロールオンに戻してください。(25ページ参照)
リズムがスタートしない。リズムの音が出ない。	外部クロックの状態になっている。	内部クロックの状態に戻してください。(25ページ参照)
	アカンパニメントボリュームが下がっている。	アカンパニメントボリュームを上げてください。
	スタートさせていない。	スタートボタン等を押してください。
低音側の音が出ない。	シンクロスタート待ちの状態になっている。	オートベースコード用鍵盤を押してください。
	アカンパニメントボリュームが下がっている。	アカンパニメントボリュームを上げてください。
	高音側を弾いている。	オートベースコード用鍵盤を押してください。
自動伴奏されない	シングルフィンガーまたはフィンガードの状態になっていない。	オートベースコードスイッチを、シングルフィンガーまたはフィンガードの位置にしてください。
	フィンガードの状態で、シングルフィンガーの押さえ方をしている。	17ページの“フィンガードコード一覧表”等をご覧ください。
途中から音階がおかしくなる。	オートベースコード用鍵盤を押している。	シングルフィンガーやフィンガードの状態になっているため、そのようになります。
思ったとおりの和音が出ない。	指を離さないうちに、次のコードにしようとしている。	鍵盤から一旦指を離したうえで、次の鍵盤を押すようにしてください。
	正確に押さえしていない。	13ページの“シングルフィンガーコード一覧表”、17ページの“フィンガードコード一覧表”等をご覧ください。
ソロスタイルプレイ機能をオンできない。	コードシーケンサー機能を働かせている。またはデモンストレーションが再生状態になっている。	ソロスタイルプレイ機能は、コードシーケンサー機能やデモンストレーション機能を働かせている時、働かせることができません。
スプリット機能をオンできない。	ソロスタイルプレイ機能、コードシーケンサー機能、デモンストレーション機能のいずれかを働かせている。	スプリット機能は、左記の機能を働かせている時は働かせることができません。
押さえた鍵盤の数だけ音が出ない。	同時に鳴らせる音数には制限があります。	制限数以上の音は、鳴らないしくみになっています。
選んでいない音色で鳴る。	オートベースコードスイッチをオフ以外の位置にしている。	低音側の音色は高音側の音色と異なります。
サスティンおよびデュアルボイス効果がかからない部分がある。	かかるパートが決まっているため。	リズム音、コード音、ベース音には、ほとんどの場合効果はかかりません。
記憶させておいたデータが消えている。	電源を切った。	電源を切ると消えます。
パネル上のランプが暗くなったり、誤動作がおきたりする。	乾電池が寿命のため。	6本共新しい乾電池と交換してください。

4.発音数一覧表

ここでは、各モードにおける同時発音数を表にします。

○：機能オン、×：機能オフ

リズム	シングルフィンガー/フィンガード	スプリット	同時発音数
×	×	×	演奏8(4)音
○	×	×	演奏5(2)音、リズム4音、打楽器ボタン3音
×	○	×	高音側4(2)音、コード3音、ベース1音
○	○	×	高音側4(2)音、コード3音、ベース1音
×	×	○	高音側4(2)音、低音側4音
○	×	○	高音側4(2)音、低音側3音

()内の音数は、デュアルボイスオン時の最大同時発音数を表わします。

5.アフターサービスと保証

サービスのご依頼は、お買い上げ店へお申し付けください。

●本機の保証は、保証書によりご購入から満1ヵ年です。尚、現金、クレジットなどによる保証の区別はいたしません。

(日本国内のみ有効)

●保証期間の1ヵ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か下記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

■お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、直接お買い上げ店にお持ち込みください。責任を持って修理調整をいたします。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”と思われましたら、まず本書の“おかしいなと思ったら”の項をいま一度お読み頂き、お確かめください。(ご依頼をお受けして点検いたしますと、故障でない場合でも点検代を申し受けしますのでご注意ください。)

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号などをハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないときにお客さまにご迷惑をおかけしないですみます。)

YAMAHA電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お預り窓口)

北海道電音サービスセンター	〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内 TEL.011-781-3621
仙台電音サービスセンター	〒983 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL.022-236-0249
東京電音サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL.044-434-3100
新潟電音サービスステーション	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL.025-243-4321
浜松電音サービスセンター	〒435 浜松市上西町911 ヤマハ楽器竹工場内 TEL.0534-65-6711
名古屋電音サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ楽器名古屋流通センター TEL.052-652-2230
大阪電音サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL.06-877-5262
京都電音サービスステーション	〒600 京都市下京区七条通間之町東入材木町483 第2マスイビル3F TEL.075-361-6470
神戸電音サービスステーション	〒650 神戸市中央区元町2-7-3 ヤマハ楽器神戸店内 TEL.078-321-1195
四国電音サービスステーション	〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ楽器高松店内 TEL.0878-22-3045
広島電音サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL.082-874-3787
九州電音サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL.092-472-2134
(本社) 電音サービス部	〒435 浜松市上西町911 TEL.0534-65-1158

*住所および電話番号は変更になる場合があります。

北海道支店 LM営業課	〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター TEL.011-512-6113
仙台支店 LM営業課	〒980 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命仙台青葉通ビル TEL.022-222-6140
東京支店 特販営業課	〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル TEL.03-572-3130
名古屋支店 LM営業課	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL.052-201-5150
大阪支店 特販営業課	〒542 大阪市中央区南船場3-12-9 心齋橋プラザビル東館 TEL.06-252-7491
広島支店 LM営業課	〒730 広島市中区紙屋町1-1-18 TEL.082-244-3749
九州支店 LM営業課	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL.092-472-2130
本社 電子楽器事業部 ポータブル営業課	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL.0534-60-3271

4. 発音数一覧表

現製品のスピーカーモデル

※本表は、スピーカーの発音数（音圧レベル）を示す目安として記載されています。

スピーカー	音圧レベル	音圧レベル	音圧レベル
X	K	X	音圧レベル
O	K	X	音圧レベル
X	O	X	音圧レベル
O	O	X	音圧レベル
X	K	O	音圧レベル
O	K	O	音圧レベル

※この発音数は、デューアルバイスオン時の最大同時発音数を示しています。実際の使用状況により、発音数は変動します。

YAMAHA

YAMAHA CORPORATION

ヤマハ株式会社

高級スピーカーシステム開発者ヤマハAMAY

(日本音響技術協会認定)

- 1-1-1 (西条) 西条市中区 100号 100号 100号
- 1-1-2 (西条) 西条市中区 100号 100号 100号
- 1-1-3 (西条) 西条市中区 100号 100号 100号
- 1-1-4 (西条) 西条市中区 100号 100号 100号
- 1-1-5 (西条) 西条市中区 100号 100号 100号
- 1-1-6 (西条) 西条市中区 100号 100号 100号
- 1-1-7 (西条) 西条市中区 100号 100号 100号
- 1-1-8 (西条) 西条市中区 100号 100号 100号
- 1-1-9 (西条) 西条市中区 100号 100号 100号
- 1-1-10 (西条) 西条市中区 100号 100号 100号

- 1-1-11 (西条) 西条市中区 100号 100号 100号
- 1-1-12 (西条) 西条市中区 100号 100号 100号
- 1-1-13 (西条) 西条市中区 100号 100号 100号
- 1-1-14 (西条) 西条市中区 100号 100号 100号
- 1-1-15 (西条) 西条市中区 100号 100号 100号
- 1-1-16 (西条) 西条市中区 100号 100号 100号
- 1-1-17 (西条) 西条市中区 100号 100号 100号
- 1-1-18 (西条) 西条市中区 100号 100号 100号
- 1-1-19 (西条) 西条市中区 100号 100号 100号
- 1-1-20 (西条) 西条市中区 100号 100号 100号

YAMAHA feelin' club



T4960693042373